

## 7 ねずみ、衛生害虫等の点検・防除

管理の目的

衛生害虫などを原因とする感染症の予防と快適性の確保

ねずみ、衛生害虫などの生息状況の点検や防除作業は、社会福祉施設では主に食中毒予防の観点から厨房を中心に実施されていますが、これまでの作業は害虫の生息の有無にかかわらず、殺虫剤を施設全体に散布する方法で行われてきました。殺虫剤による処理は、効果が速く現れる、安価、簡便と多くの利点も持っていますが、一方で、害虫に薬剤の抵抗性を獲得させたり、薬剤の不適切な使用による健康被害も起こしたりします。

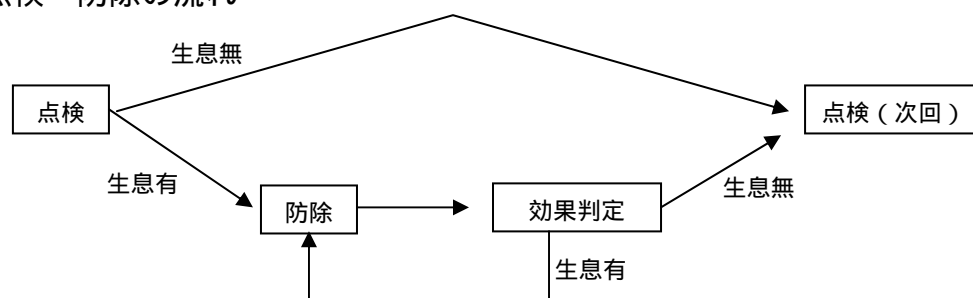
このようなことから、現在は IPM（総合防除）という考え方が主流になっています。IPM（総合防除）とは、「害虫等による被害が許容できないレベルになることを避けるため、最も経済的な手段によって、人や財産、環境に対する影響が最も少なくなるような方法で、害虫等と環境の情報をうまく調和させて行うこと」と定義されており、生息状況調査を重視した防除体系です。つまり、害虫等の生息状況の点検をしっかりと行い、その結果に応じて殺虫剤の使用が必要かどうか、環境対策の余地はないかどうかなど、適切な防除対策をとるようにすることが必要です。

なお、ねずみ、衛生害虫が発生しやすい場所として、厨房内、食料品保管場所、グリース阻集器、食堂、湯沸し場付近、自動販売機周辺、廃棄物保管場所、汚水槽、雑排水槽などがあげられますが、このような場所の清掃や整理整頓等の環境整備を行って、発生源をなくすことがまず何よりも重要であることはいうまでもありません。

～防除とは～

薬剤処理をすることだけが『防除』ではありません。侵入防止対策（害虫等が侵入しない構造にすること）や環境対策（清掃や整理整頓など害虫が繁殖できない環境を整えること）も重要な防除作業の一つです。

～適切な点検・防除の流れ～



< 管理項目 >

- 1 厨房・食料品保管場所・廃棄物保管場所等の防虫・防そ構造の確認
- 2 ねずみ、衛生害虫等の生息状況の確認

< 必要な帳簿書類 >

- ・ねずみ、衛生害虫等の点検を実施した記録  
(ねずみ・衛生害虫等点検・防除記録票/p. 118 参照)
- ・ねずみ、衛生害虫等が生息していた場合、防除作業の実施報告書

1 厨房・食料品保管場所・廃棄物保管場所等の防虫・防そ構造の確認

厨房・食料品保管場所・廃棄物保管場所等は害虫が発生しやすい場所です。そこで、あらかじめ外からの害虫等の侵入を防ぐ構造にしておくことが必要です。次のような項目を確認しましょう。

- ・開口部（扉、窓、換気扇等の給排気設備）の防虫網が破損していないか
- ・扉を開放したままにしていないか
- ・排水管やガス管等の配管まわりにねずみが入りこめる隙間があいていないか

2 ねずみ、衛生害虫等の生息状況の確認

月に1回程度、施設全体について生息状況の点検を行いましょう。生息が確認された場合は防除作業を行います。特にチョウバエ、蚊、ゴキブリ、ハエ等が生息しやすい場所は次のとおりです。

- ・厨房、グリース阻集器、食堂等
- ・建物周囲、廃棄物保管場所の排水マスや排水溝
- ・排水槽、湧水槽



排水槽マンホール部分に生息するゴキブリ

点検・防除記録の内容のチェックポイント

- ・生息状況の点検を行い、記録を残しているか
- ・点検は厨房、廃棄物保管場所、排水槽等を含め全館で行っているか
- ・生息が認められた場合には、防除作業を行い、記録を残しているか
- ・防除に薬剤を使用した場合は、使用場所、薬剤、量が明確に記入されているか
- ・薬剤は、薬事法で認可された医薬品、医薬部外品を使用しているか
- ・防除を行った場合は効果判定を行っているか

## 特に注意したいねずみ、衛生害虫

### 1 ゴキブリ

チャバネゴキブリは、空調設備の整ったビル内の食堂、給湯室などでよく見られます。フンや死骸などが食品に混入することもあります。



チャバネゴキブリ



クロゴキブリ

クロゴキブリは、ビル内や住宅内でよく見られ、屋外から飛んでくることもあります。

防除の方法は、生息場所の清掃とベイト剤（誘引毒餌剤）の設置などが効果的です。

### 2 チョウバエ

チョウバエは、小型でハエに似たハート型をしています。主な被害は、調理場への侵入や食品への混入などです。

チョウバエの発生源は、主にビルの汚水槽や雑排水槽ですが、一般家庭でも風呂場や台所の「排水マス」から発生することがあります。また、厨房ではグリース阻集器が発生源になっていることもあります。幼虫はこれらの槽内のスカム（浮きかす）の中において、有機物を食べて羽化します。



チョウバエ

防除の方法は、発生源を見つけて清掃するのが一番ですが、発生してしまったチョウバエに対しては家庭用のエアゾール型殺虫剤が有効です。

### 3 蚊

蚊は大昔から人の周りで発生していた吸血性の昆虫で、日本には100種類ほどの蚊が生息しています。また、種類によっては感染症を媒介します。代表的な感染症として以前から知られているマラリアや日本脳炎、最近アメリカで大きな問題となっているウエストナイル熱などがあります。

防除の方法は、蚊の発生源である「水たまり」を見つけ、水が溜まらないようにすることが大切です。雨水マス、排水槽、野ざらしの容器、植木鉢の受け皿など水がたまる可能性のあるものについては注意して管理しましょう。また、蚊の室内への侵入を防ぐには網戸が有効です。



アカイエカ

#### 4 チリダニ

ヒョウヒダニ(チリダニ科)はどここの家にもいて、タタミ、ジュータン、ふとん等に生息しています。人のフケやアカなどを食べ、室内のホコリの中に多く見られます。アレルギー体質の人にはヒョウヒダニの死がい、フン等が喘息の原因となり、また、アトピー性皮膚炎に関係があると言われています。

防除の方法は、室内の乾燥とこまめな掃除が効果的です。タタミやジュータンは日に当てて干すなどの処理を行い、その後掃除機でよく吸い取ります。ふとん、毛布、ぬいぐるみ等は、洗濯することも有効です。



ヒョウヒダニ

#### 5 ツメダニ

ツメダニ類は、室内にいるヒョウヒダニ、コナダニ、チャタテムシなどを餌にするダニで、人も刺します。新築後2～3年のタタミに多く発生し、刺されると、激しい痒みとともに赤くはれます。

防除の方法は、毎日掃除機でこまめに掃除をするのが有効です。高温、多湿を好むため、室内の乾燥と温度を下げるようにします。タタミ、ふとん、シーツなどはよく日に当てて干すことも効果的です。



ツメダニ

#### 6 ねずみ

発生事例が多いのは、クマネズミとドブネズミですが、小型のハツカネズミ(体長6～9cm)の例もあります。

クマネズミは体長15～23cm、登はん力に優れるなど、ビルの環境に適応し、繁殖をしていますが、近年は住宅地でも広く生息するようになりました。

ドブネズミは体長22～26cmで下水管の中や土の中に穴を掘って生活している例が多く、食物を求めて家屋等に侵入してくることがあります。

防除の方法は、えさとなる食料品や生ゴミは密封できる容器に入れ、放置しないようにします。また、壁を貫通する配管のまわりなどはねずみが侵入しないように隙間をふさぎます。殺そ剤、粘着トラップや網かごなどはドブネズミには効果がありますが、クマネズミは警戒心がとても強く、使い方にコツが必要です。まずは、ねずみが侵入・繁殖しないような整然とした環境作りが最も大切です。

その他、ねずみ対策の詳細については、東京都環境水道課編集の「東京都ねずみ防除指針」(平成17年2月)を参照してください。



ドブネズミ